

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p><b>1 市民の健康を支える覚悟を（20分）</b></p> <p>ワクチンは、症状軽減による医療費の削減、後遺症や死亡による社会的、経済的損失を考慮すると、極めて費用対効果の高い、医療経済学では賢い取組とされています。</p> <p>ワクチンの効果には大きく2つあり、ワクチンを接種した人が受ける予防効果と、多くの人々がワクチンを接種したことで集団に生じる効果、いわゆる集団免疫があります。</p> <p>来年度より本市では带状疱疹ワクチンの助成が検討されています。带状疱疹ワクチンは非常に優れたワクチンですが、その有効性は接種者のみが享受でき、集団免疫を見込むことが難しいワクチンです。また、4万円以上かかり非常に高価です。そして、带状疱疹ワクチンは带状疱疹による痛みを予防しますが、高齢者の命を救うことは困難です。</p> <p>前回の定例会では、自治体が率先して、高価で集団に対する有効性が限定的な带状疱疹ワクチンを、その他の安価でより高い有効性が見込めるワクチンよりも優先的に助成する意味と費用対効果について疑問を呈しましたが、その後予算案に組み込むに当たって、科学的根拠の裏付けをどのように行ったのかを再度お伺い致します。</p>	市長
<p><b>2 若年層にも利用しやすい行政サービスを（20分）</b></p> <p>行政の窓口サービスの利用しやすさについて議論するとき、利用者の中心として挙がるのは高齢者です。確かに他自治体が公開している行政窓口の利用頻度と年齢層のデータによると、80歳以上で週に1回以上自治体窓口を利用すると答えた割合は若年層で同様の頻度と答えた割合の約4～18倍以上と非常に高く、高齢者の行政窓口の利用頻度の多さが他の年齢層と比較して抜き出しています。</p> <p>しかしながら、そもそも行政の窓口業務自体が主に平日の日中に開いており、フルタイムで働くことが多い若年層にとっては利用しづらいサービス提供時間になっていることは往々にして忘れ去られています。利用しづらい時間に設定しておきながら利用者が少ないからニーズがない、重要性が低い、と判断されるのは一若年者として困ったものです。</p> <p>現代の民間事業者の問合せ窓口の多くは主にチャットが利用されており、行政サービスでも市民からの声を様々な方法で吸収しようとする努力が必要なタイミングと考えています。</p> <p>（1）窓口業務を行っている各課のチャット窓口の導入状況及び利用状況は。</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>(2) チャット窓口の導入の検討は。</p> <p><b>3 人件費のコストカット、結局どうするつもり？ (20分)</b></p> <p>市が公開している第2次鶴ヶ島市職員定員管理計画によると、鶴ヶ島市の人件費は、正規職員に限れば県平均を下回るものの、対象経費を「人件費に準ずるもの」まで拡大すると県内40市中6位と非常にコストがかかっていることが示されています。計画の中で、既に県平均を下回っている正規職員の適正化についてはさらに多くの対策が検討されていますが、本市の問題点である「人件費に準ずるもの」をどう削減するかについては検討されていません。「人件費に準ずるもの」の中身は消防や上下水道など複数の近隣自治体と共同して運営する一部事務組合でかかるコストが問題となっています。</p> <p>市として「人件費に準ずるもの」を削減するために一部事務組合へのこれまでの働きかけや今後の展望をお示してください。</p>	市長